

令和4年度 市民の声一覧(下半期公表用)

受付月	区分	件名	市民の声	回答(対応)内容	担当課
3月	防災・災害対応	南海地震の住民避難対策について	<p>現在、高知市などの太平洋側の各市町村の南海地震の住民避難対策や防災が問題視されています。</p> <p>問題になっている事の1つに、近所に高台が無い住民の避難対策がありますが、実際に、地震後に道路や住宅の被害がある中で、多数の住民が高台などに短時間で避難する事は困難です。そのような状況で、お年寄りや寝たきりの人の避難は事実上困難ですので、和歌山県に提案したのが、海岸沿いの浸水区域の住民に簡易のライフジャケットを順次配布する事です。</p> <p>津波において、溺れる事が最大の問題で、それを防止する事が最優先です。</p> <p>東日本大震災の津波被害のほとんどは避難中の溺死で、火災や家屋倒壊よりも溺れを防止する事で、取り敢えず死亡の軽減が出来ます。</p> <p>そして、そのライフジャケットをお年寄りや寝たきりの人は枕元に置いて、家族は玄関先の下駄箱の上などに設置する。</p> <p>その上で、高知市などの近くに高台や山などが無い地域では、大津波などの高波から避難出来る場所まで避難する時間や道路が難しい場合がほとんどです。</p> <p>そこで、そのような港や海岸沿いの住民の高台や山への避難が難しい住民については、各町内100～200m間で災害備蓄倉庫を兼ねた津波に耐える二階建てを設置する。</p> <p>つまり、普段は災害備蓄倉庫として活用して、台風や豪雨、土砂崩れなどの災害時の避難食料や機器の倉庫として機能させる。</p> <p>そして、南海地震の大津波時には、隣近所の住民が時間を掛けて行けない高台を目指すよりも、防水扉を二カ所設置した災害備蓄倉庫に避難して、丸一日間の津波が引いた後に避難する。</p> <p>防水扉を二カ所にするのは、津波が引いた後に扉の前に障害物が残り、扉が開けられない事を想定した。</p> <p>その為に、倉庫内での照明や食料、水やトイレなどを確保する。</p> <p>その倉庫は、空き家や駐車場などの使用していない土地を使用する。</p> <p>それによって、短時間で押し寄せる津波から無理に避難するよりも、近所に防水倉庫を設置して、短時間で地域住民を避難させる。</p> <p>その時に、ライフジャケットを装着して避難する事で、万が一津波に吞まれても溺れないようにする。</p> <p>以上、太平洋側の南海地震の住民避難対策を提案いたします。</p>	<p>この度は本市の防災行政へのご提案ありがとうございました。</p> <p>ご提案内容に関する本市の回答をお送りさせていただきます。</p> <p>本市における南海トラフ地震等の大規模災害時の津波対策についてですが、本市では市内の自然地形の高台への避難路343本を整備し、揺れが収まったらまず避難を行っていただくよう市民の皆さまへの啓発を行っております。</p> <p>同時に、津波到達時間が短く避難路への避難が間に合わない沿岸部等の地区につきましては、各地区において高齢者等の歩行速度を考慮した避難シミュレーションを行ったうえで、9か所に津波避難タワーを建設するとともに、3か所に津波避難センターを建設し、簡易トイレや防寒用アルミシート等の備蓄物資も整備しております。</p> <p>更に、津波による浸水が予想されるエリアにおきましては、一定基準を満たした建築物を津波避難ビルとして指定し、津波避難タワー同様に物資の備蓄を進めており、現在337施設を指定しております。</p> <p>これらの施設につきましては、本市の地域防災推進課のホームページにて公開し、市民の皆さまへの周知を行っておりますので、下記のURLにてご確認いただければと思います。</p> <p>○高知市地域防災推進課ホームページ https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/</p> <p>なお、ライフジャケットの配布についてですが、前述のとおり、本市では津波が来る前に津波が来ない高台や津波避難タワーへの避難を啓発するとともに各種ハード整備をおこなってきており、現在のところ配布や整備の計画はございません。</p> <p>以上、本市からのご回答とさせていただきます。貴重なご提案ありがとうございました。今後とも本市防災行政へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p>	地域防災推進課